

なきごえ



1967



大阪市
天王寺動物園

インド・セイロンに鳥を訪ねて

(その1)

上村 淳

鳥や花ばかりを題材にして描いてきた私にとって、熱国の風物をまのあたりに見たいという願いは、学生の頃から持ち続けてきたものです。その極彩色の美しさには非常な魅力を感じながらも自然に生棲する様を想像するのみで、実感として把握する事が出来ず、いたずらに禽舎に遊ぶ様を眺めているばかりでした。

年末の出発を予定していましたところ、たまたま約二週間の旅程で印度の仏教遺跡を巡る、パーティーに誘われて、十二月初め、あわただしく出発しました。

カルカッタを振り出しに、パトラ、ベナレス、デリー、アグラ、カジュラオ、ポパール、ボンベイ、オーランガバード、マドラスと、飛行機やコーチ、タクシーを利用して移動致しました。

或る時は、まだ夜の明け切らぬ原野を走り、又或る夕暮は、その赤紫の夕映えの美しさに一日の疲れを忘れてしまいました。

カルカッタを東端に北はデリー、アラビア海岸のボンベイ、ベンガル湾のマドラスと、緯度にして22度程度にして22度の差があるのですから気候風土はもとより人種も様々ならば、生棲する鳥類も、又換毛期も異なっておりました。

印度に旅をして、先ず驚くのはその不潔さですが、赤い埃やたらに捨てられる残飯の悪臭の中に人間と、牛、山羊、犬、猫、そしてカラス、マイナー、スズメが共同生活を営んでおります。彼等はお互



A.U

に生活の領域を侵す事なく、かといって交友関係を結ぶわけでもなく、極く自然に、共存しております。

信仰上、殺生を許されぬ人種が多く、従って鳥類は危害を加えられる事もなく、人間と鳥類との関係は、互に無関心と云っても過言ではありません。無気力な人間と無数のカラス(真黒なのは少く、灰紫色の背をした美しいものが殆どです)、足もとをうろろうと歩くマイナー(ムク鳥の一種、三種類が普通にみられる)等、私共が日常鳥に対して抱く感情とは、およそ異った世界をみるのです。

しかし一歩郊外にかゝりますと、澄みきった空気と、どこまでも続く平野が美しく開けます。

ちょうど二月迄は、乾期にあたりますので鳥類の生棲地も限られて居るわけです。水があれば必ず村があり、牛、山羊が放牧され、空には禿鷹が舞い、極彩色の美しい鳥が見られるのも、そんな場所なのです。

廢墟の赤レンガに休むインディアンローラー。見地味なこの鳥も、パット飛び立つと群青の翼が目にも痛い程鮮やかに映えます。ギャーギャーとうるさく騒ぎながら灌木にたわむれるキングルバプラー、孤独なキングフィッシャー。夕映えに、三三五五、キー、キー、キョーと寝ぐらに帰るのであらうワカケホンセイインコ、コセイインコの飛ぶ様は、哀調をおびた美しさがありました古城の大大理石の美しく装飾された壁に遊ぶインコの印象も又、豪華さと、優美さにあふれておりました。

赤土の荒原に印度孔雀が美しい雄に率いられて五羽、六羽、或るものは餌をついばみ、羽を整える姿も又印度ならではの感があります。私のアトリエにも自然孵化の母子等、今七羽の印度孔雀が放たれていますが、其等とは又異って、人を寄せつけぬような威厳を保っているかの如く感じられました。

寺院や遺跡の庭では常時散水されるのですが、出し放しになっているホースの口のところに入れ代り、立ち代り、様々な鳥が集まって水浴をしております。

愛嬌のある頭の羽根を閉ちたり開いたりするインディアンフーパー。尾を上げると下尾筒の深紅が美しいバルブル。濃紺にかざやく尾の長いブラックドラゴン、細長い尾をかざして飛びかう蜂喰い。ブーゲンビリアに群れるサンバード等、名も知らぬ様々な鳥が、いかにも楽しげに、のびのびと生活しております。(つづく)

<京都市立美術大学講師・日本画家>

せいらんの飼い方

今月号はきじ類の特集なので、きじのなかまで大変珍しい、せいらん(Argus Pheasant)の紹介と当園でふ化育芻した記録について、お話してみましよう。

このきじは、タイ・マレー半島・スマトラ・ボルネオに分布し、せいらん・かんむりせいらんの2種類があります。くじゃくに近い大きさで、体の地色は褐色、全身に微細な小紋様の美しい班紋をもっています。尾の羽根は普通のきじとちがって広く、丸い輪のもようをつけた長さ1.5m位もある立派なものです。

かんむりせいらんは名のごとく、後頭部に直立した羽冠をつけております。

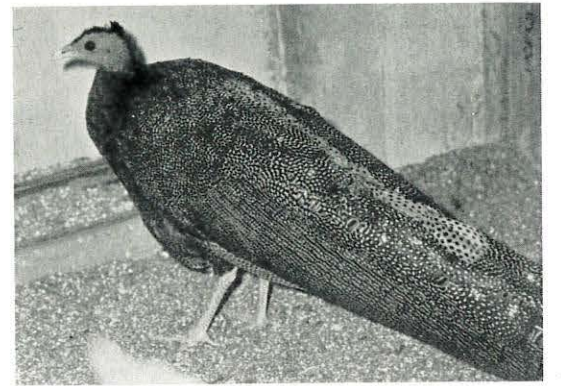
我が国でも昔(徳川時代頃)から、茶の湯のはぼうきとして、現在にいたるまで珍重されております。

京都や奈良の古いお寺には鳳凰の絵や彫刻がよく見受けられますが、これは中国で昔のいい伝えを想像してせいらんやくじゃくの形をとり入れて、創り出したのではないかとされています。

かんむりせいらんは、我が国では全く見られませんが、せいらんの飼い方といっても、大体くじゃくとほぼ同じです。くじゃくの飼い方は前号で紹介してあります。

せいらんは戦後では昭和31年12月に入って来ております。大変貴重なきじなので、特別な鶏舎を選定し、そこで放し飼いとして、野犬やいたちに襲われたり、又泥棒に盗まれないようそれは大変な気の配りようでした。

入園当時はちょっとしたことにも、非常にこわがるなど、とても神経質なきじで餌付きも悪く、心配でした。飼育者は何とかして餌付きをよくするため、きじが好みそうな多くの種類の飼料を、種類別に1箱1箱6~7種類ならべてみたところ好んで食べておりました。もう一つ心配なことはやはり寒さに弱いことです。



冬は鶏舎に硝子戸をつけて寒風にさらさないようにしてやりましたが、夜間は特別に暖房はしませんでした。そのうちにだんだん馴れ、元気で春先になって、朝夕ホー、ホーと感高く鳴くようになりました。餌にもうまくいき暖くなるとともに舎内外全部開放してやり一応飼育に成功しています。昭和35年4月末日頃と記憶していますが、思いがけなくも産卵していたので、大喜びしました(このきじは1シーズン2卵しかうまない)早速電気ふ卵器に入れてやりました。25日後に見事ふ化に成功しました。(初めてせいらんのふ化日数を知る)育雛で特に気づいたのは天候特に湿気に敏感で雨天の場合は元気がやゝ落ちたようです。

雛から育てれば、きじ類より温和でよく馴れます。成長の度合は他のきじよりやゝおそいようでした。初芻のうちは初雛用の配合飼料(チックフード)を1週間与え、その後20日間程は中雛用オールマッシュにねり餌玉葱も少量与え、虫類も1日2~3匹与えました。その他みをさ・おのみ・あわ・とうもろこし・小麦なども与えてみたがよく採食し、60日位で体重262g、120日で800gと成長し現在も元気です。非常によく育って入って行くと、餌をねだって後からついてきて手から餌をもらって食べます。

(米田 敏光)

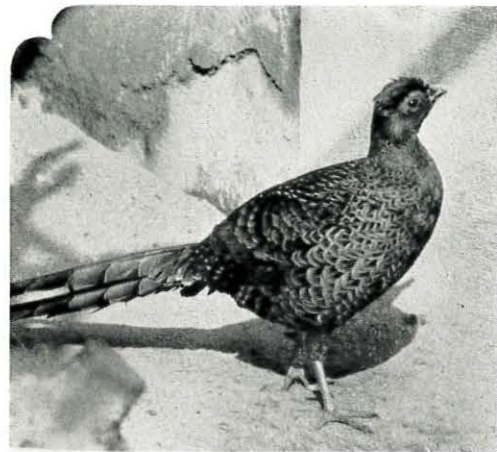
動物園グラフ



↑ にじきじ (西ヒマラヤ)

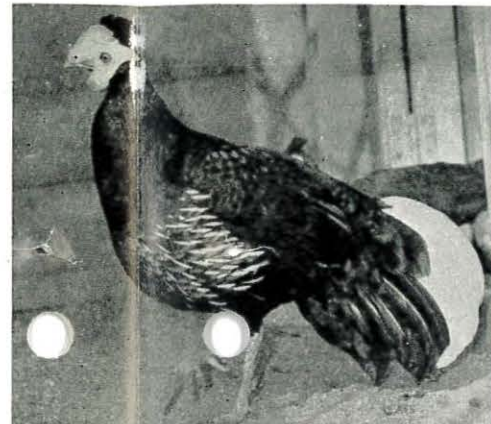
羽がニジの様に金属的ななまやきがあり美しい。高山にすむので暑さには弱い。当園で毎年人工ふ化して、ひなを育てている。

鳥は美しい動物です。特にクジャク、キジの仲間には美を競うスターたちが揃っています。当園の36種類の仲間の代表的スターをそろえてみました。
キジは日本の国鳥にえらばれています (1947年)



やまどり (日本)

日本固有の鳥で全体が赤銅色をしている。繁殖はむづかしい。この鳥は当園で卵からふ化育成したものです。



↑おじろこしあかき (タイ、スマトラ産) 大型の美しいキジ。顔は青い仮面をつけたようです。



かきい (みみきじ) (東北中国)
森林にすむ大型のきじで、非常に飼い易い。
ホホに白い羽があるのでミミキジともいわれる。



↑きんげい (中国西南部)
黄金色の美しいキジで一般によく飼われている。

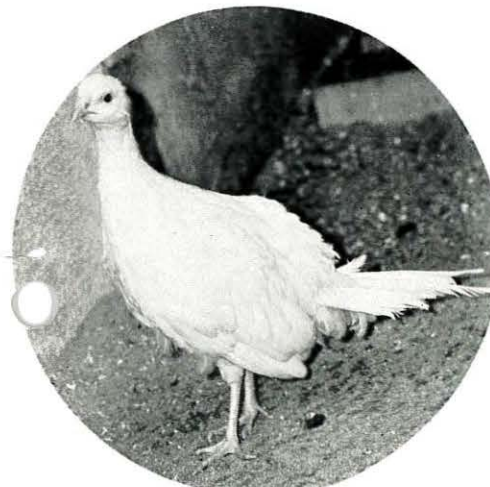


↑ からやまどり (中国)

このきじは数が少く珍しい。春先になると写真のようにディスプレイする。



←はっかん (中国南部)
羽の白と黒のコントラストが美しい。飼育はやさしい写真は砂あびをしているところ



↑しろきじ♀

おながきじ (中国西北部)
尾が非常に長く、1.5m以上にもなる。禽舎内でもよく繁殖する。



2月 動物園日記

- ① 1月号の動物園ニュースで紹介しましたチンパンジーのキャンデーちゃん、あしかのカーコちゃん、たぬきのアキ子ちゃんの演技トリオは前人気上々で、各新聞社も大きく取り上げ、広く紹介するため取材におしかけました。
- ② 昨年6月当園で生まれたあしかの赤ちゃんは元気に大きくなりました。このごろやっと離乳期に入ったのかお魚をくわえるようになりました。
- ③ マレージャこうねこの赤ちゃんが生まれました。やぎの赤ちゃん

- んが2頭生まれました。節分を迎えてキャンデーちゃんが豆まきをしました。時々、弁に入れた五色豆を食べているのが御愛嬌。(2月号動物園ニュース既報)
- ⑤ 7月末に出産予定のキリンのお母さんはだいぶんお腹が大きくなりました。
- ⑥ 今年も産卵期を迎えて、しゅばしこうの夫婦のために産座づくりをしました。高い巢台にはしごをかけての大仕事でした。
- ⑨ つしまやまねこが急死しました。前日まで非常に元気だったのにこの朝より突然激しい発作を起こし手当のかいもなく死にました。

- ⑩ かもしか園のはなしか(めす)が突傷をうけて加療中です。てながざるも冷え込みのため下痢をしていますので暖房室に入れてやりました。
- ⑫ ゴリラのゴリ君は遊び相手を失って退屈なのか寝台をすっかり壊してしまい、急いで修理をすることにしました。
- ⑬ 近く出産する予定だったニルガイのめすは急性肺炎のため死にました。
- ⑭ ライオンは近頃、近視繁殖のためか繁殖率が悪くなってきたのであやめ池動物園とお互にめすライオンの交換を行なうことになりました。寒波がおしよせ小雪がちらついたので、動物たち

- を早く寝室に入れてやりました。
- ⑯ エランドが感冒にかかり治療しています。
- ⑰ 出血性大腸炎で加療中のくもざるが死亡しました。
- ⑱ アルマジロがおいしいことに死にました。
- ⑳ このところ3月下旬のような暖かさが続いて、熱い国から来た動物たちはほっとしているようです。
- ㉑ とびかもしかが突然運動場で呼吸回難を起して手当をしました。が惜しいことに死にました。
- ㉒ にほんぐまの赤ちゃんの寄附があり、芸を教えようと思っています。

ペットを訪ねて

鳥と暮して60年

都島区都島本通1の5

西田善次郎さん

春はそこまでやってきました。

淀川べりにボートの姿もチラホラ見える。2月の或る日、都島橋のたもとにある西田さんのお宅を訪ねました。

うず高く積まれた材木の間を通り抜けて2階の一室に案内された。三畳ばかりのこの室が西田さんの仕事部屋である。本職は、手広く営む材木屋さんだが、あきないは、息子さん夫婦にまかせっきりの云わば御隠居さん。専ら鳥を相手の毎日だ。だから、この室もそのための専用部屋である。コマ、メジロ、ホオジロ、ヤマガラ等の籠が所狭しと占領している。すべて皆、山野での獲物である。

朝、と云っても夜中の2時に起きて愛車ヒルマンを駆って餌に出掛ける。5時、夜明けと共に鳥を求め、夕方デコボコ道を走り乍ら家路につく。

「小さい時から祖父に連れられてよく鉄砲撃ちに行きました。小学校に上っても鳥キチは益々昂るばかり。先生の目を盗んでは机の引出しにスズメの子を入れて弁当の御飯をやるのです。勉強はそっちのけ。チーチー鳴くのがたまらなく可愛かった。お蔭で先生に見付かっては教室で立たされたのを憶えています」



西田さんと愛鳥

戦災、火災と二度、三度焼けた時も鳥だけは離さなかった。

野鳥から飼い鳥へと夢はふくらんでいった。クジャク9羽を始め、キンケイ、ミカドキジ、サンケイからオナガドリまで、約200羽の鳥たちが現在の相手である。たくさん並んだ材木小屋の2階が鳥小屋である。お手のものの材木ですべて手作り。金網までも自分であむ。メジロやウグイスたちの竹籠も、丹波の篠山で求めたスズ竹で自分でコツコツ割って見事な竹籠を作り上げる。

「今時分、こんな竹で籠を作る人なんて居りませんよ」と云い乍ら、竹の割り方、磨き方組み方を話される。そばでヤマガラが盛んにコツコツと止り木をたたくている。

「孫のお守りより鳥の世話が大事な人で…」と笑い乍ら奥さんも話してくれた

「その好きな道も近頃は糖尿が出て医者から止められてサッパリですわ。」と60年近くも鳥とともに暮してきた西田さんの顔には一抹の淋しさがいっぱいに漂っていました。

(中川 道朗)

表紙の写真説明

しろくじゃく
純白のドレスをきたような清楚なすがたを池の鏡に写してウツトリ。

動物園ニュース

春近い動物園

2月の前半は寒波の来襲を受けて、依然として寒い日が続きましたが、後半に春のきざしが感じられる日が時々あって、動物園を訪れる方も近年になく大勢ありました。又、動物の動作にもこの様なものが観察せられます。水鳥の鴨の仲間は暖かい日には水面をはばたいて、はしやぎ回り、羽のつくろいも楽しそうに一段と念入りにめかし込んでいるようです。

2月3日には、小獣舎の一角で、マレージャコウねこが出産しました。

しゅばしこも、春のシーズンをすばやく察知してか、嘴でカタ、カタ、カタと互に歌をかなでる動作が目立ってきましたので、2月6日産座を充分作ってやりました。

今年も産卵、ふ化は確実と思われます。3年連続の本邦のレコードに飼育係は大いにはりきっております。

「都鳥」みやこにノボる

《上野動物園と初の動物交換》

どうしたことか東京「都民の鳥」に選定されているゆりかもめ(みやこどり)が上野動物園に1羽も飼育されていないということで、このたび動物交換の申し出があり、天王寺動物園からは3月3日にゆりかもめ1羽とみやまはつかん2羽を送り、上野からは翌4日にはいろいろやけい2羽が送られてきました。「みやこどり」は伊勢物語などで有名な歌人業平に「名しをはばいぎこととはん都鳥……」と恋人の行方をたずねられたほど、昔から東京地方にはなじみの深い鳥で、現在でも冬季になるとシベリヤの東北部やカムチャッカから渡ってきて隅田川や皇居のお濠などにたくさん群れ飛んでおり、都民に親しまれているようです。このような交換を通じてなるべく多くの種類の動物をみていただけるようにしたいものです。

●ラクダ、カンガルー放飼場

完成(予定)3月下旬。総工費6,480,000円
面積1,600m²。

これが完成しますと現在仮すまいで、ヤギ、ひつじなどと同居しているひとこぶらくだや、購入予定のふたこぶらくだがのんびりと歩く姿が見られます。又、ここには赤や灰色のカンガルーも収容されます。

●ペンギン冷房舎

完成(予定)4月下旬。総工費9,200,000円
冷房室52m²。

冷房室は3倍の広さになり、室内温度はサーモスタットにより常時14°C平均に保持されます。現在のは少し故障がちで盛夏になると氷の補給などに追われ、室内湿度も不調気味でした。昨年、キングペンギンが2羽も抱卵したのにふ化しなかったのもそれが1原因?

部屋も広くなり、室内池の水も冷却できて、夏も「南極」住まいのできるペンギンさん。今年こそうれしいニュースを聞かせてくれるものと期待しております。

春季動物慰霊祭

3月21日(春分の日)恒例の慰霊祭が行なわれます。

日ごろ私達のために役立っていている家畜や動物園でなくなった動物の霊をなぐさめるための行事です。ものいわぬ動物に対する感謝の気持ちを深くしたいものです。

なきごえ 3月号もくじ

インド・セイロンに鳥を訪ねて……………	2
飼い方シリーズ(せいらんの飼い方)……………	3
動物園グラフ……………	4.5
ペットを訪ねて……………	6
動物園ニュース……………	7

なきごえ 昭和42年3月15日発行（毎月1回15日発行）第3巻第3号（通巻23号）

編集人／和田辰巳 発行所／大阪市天王寺動物園協力会 大阪市天王寺区玉水町2 電話大阪771-8401

定価 40円

